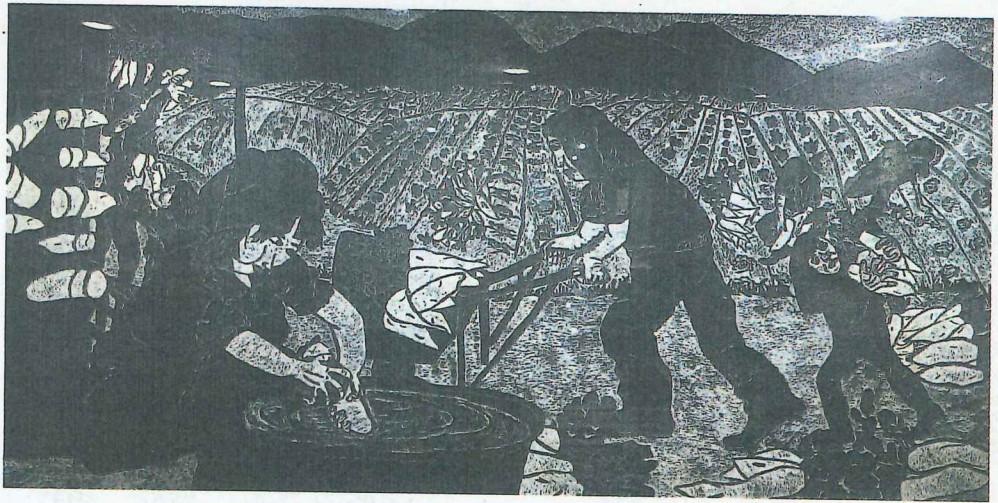


教育版画 熱量ひしひし

弘前



「だいこんあらい」(1981年、鶴田町)

中心指導者 寄贈作品で企画展

故・大田氏

弘前大学資料館で企画展「津軽地方の教育版画」(昭和・平成・令和の子どもたち)が開かれている。五所川原市教育委員会が旧嘉瀬小学校で保管している、教育版画運動の中心的指導者だった故・大田耕士氏から寄贈を受けた全国各地の版画のうち、津軽地方で昭和・平成に制作されたものや関係資料など約150点を展示。当時の暮らしぶりや版画に懸ける子どもや教師たちのエネルギーが伝わる。(西尾瑛)

兵庫県出身の大田氏は、戦後の版画教育をけん引。五所川原市へは、昭和20年代、平成初期にかけて全国各地から集められたコンクール受賞作など膨大な資料を寄



「おとこみんとぼろり」(1982年、五所川原市)

贈したといい、現在旧嘉瀬小で保管されている。大田氏はアニメ監督宮崎駿氏の義父でもあり、映画「魔女の宅急便」劇中画のモデルは、八戸市の中学生が制作した版画とされる。会場では、古いもので昭



大田氏に送られた版画の年賀状など



「とまどが実った」(1983年、五所川原市)

和30年代に制作された子どもたちの版画が並ぶ。昔はよく落ち葉などをかき出し「あらい」(81年)「おと

さんとボロリ」(82年)といった、子どもたちの身の回りの様子や暮らしが、生き生きと描き出されている。ファンタジーな大スケールの共同制作連作の版画もあり、その細部まで緻密な版画に圧倒される。

このほか、全国の版画家やデザイナーらから大田氏に送られたデザイン性あふれる版画の年賀状の数々や、弘前大教育学部附属中学校の1年生が制作した、多版多色刷りの包装紙の作品も展示されている。

展示を担当する弘前大教育学部美術教育講座の佐藤絵里子准教授は「作品から伝わる熱量はすごいものがある。中にはもしかしたらご自身の作品があるかもしれないし、当時の風景に懐かしいものもあると思う」と話した。

3月28日までの開催で、時間は午前10時～午後4時。日曜・祝日休館。2月24日は大学入試の関係で臨時休館となる。

※この記事は陸奥新報社の提供です。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先] 弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp